チーバくん

2024.3
No.255

千葉文化

CHIBA PREFECTURAL CENTRAL LIBRARY

千葉県立中央図書館報

資料散策　７１

『図書学概論』　　（田中敬著　富山房　1924）

1924（大正 13）年３月に皇太子裕仁親王（後の昭和天皇）の御成婚記念千葉県図書館として千葉県立図書館は誕生しました。開館後、最初に受け入れた図書は『図書学概論』です。当時は、受け入れた資料を手書きの図書原簿に記載していました。図書原簿をみると、1924（大正 13）年11 月８日に受け入れたことが分かります。この図書は、中央図書館の書庫にあり、現在もご覧いただけます。

登録番號	受領日附 大正13年 月	日	受領種別	門目	分類又ハ函號	番號	書名	著譯編者名
1	11	8	購入		0120	1	圖書學概論	田中敬

図書原簿

県立図書館のあゆみ　大正・昭和・平成・令和

大正 | 昭和

1920 — 1930 — 1940 — 1950 — 1960

1924(大正 13)年
・「御成婚記念千葉県図書館」の設置を文部大臣（当時）認可

1933(昭和８)年
・改正図書館令に伴い中央図書館に指定される

1934(昭和９)年
・「御成婚記念千葉県図書館」新館舎落成
11 月オープン

1948(昭和 23)年
・５分館設置（香取・山武・君津・海匝・安房）

1949(昭和 24)年
・移動図書館「訪問図書館ひかり号」運行開始

1951(昭和 26)年
・図書館法制定に伴う千葉県立図書館条例の公布・施行により、名称が「千葉県立中央図書館」となる。

1954(昭和 29)年
・３分館設置
（長生・安房館山・夷隅）

1968(昭和 43)年
・現在の県立中央図書館の地に移転

御成婚記念千葉県図書館

【御成婚記念千葉県図書館】
旧物産陳列館の一部を仮館舎として開館しました。

御成婚記念千葉県図書館　新館舎（現千葉県庁南庁舎付近）
※1954（昭和 29）年撮影

工事概要
様式：近世国際式
工期：1933（昭和８）年 10 月４日起工
1934(昭和９)年６月 30 日竣工

ひかり号（１号）

貸出しの歌

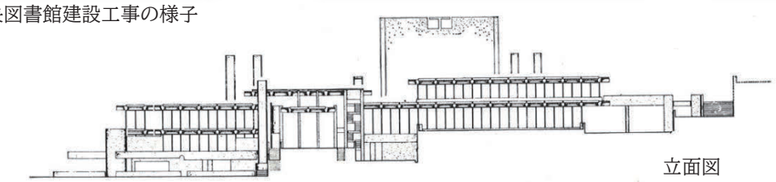
ひかりの歌
並木　杏子　作詞
團　伊玖磨　作曲

はずむわだちに　あこがれ乗せて
〝ひかり〟はゆくゆく　山越え野越え
着けば取りまく　読書の友の
笑顔のあかるい　ステーション
あゝ　風かおる　文化の朝は
移動図書館（ブックモビール）
〝ひかり〟から　〝ひかり〟から
移動図書館（ブックモビール）

【ひかりの歌】
さわやかで快いリズムの「ひかりの歌」は、文化のひかりを掲げ、町から村を訪問する姿を表しています。当館にご来館の上、「国立国会図書館歴史的音源」で聞くことができます。

中央図書館建設工事の様子

中央図書館



立面図

1968（昭和 43）年に完成した現在の県立中央図書館は、建築家の大高正人氏が設計しました。
図書館空間のモデュラーシステムをプレキャストコンクリートのプレハブ構造体で組むという新たな工法でした。
十字型が構成する升目と支柱により、特徴のある空間となっています。
（設計や施工、落成式についての情報は、当時の『千葉文化』No.170-175 でご覧いただくことができます。）

玄関ロビー

読書室

閲覧状況表示電光掲示板

開館時の様子

電動書庫

工事概要(竣工当時)
構造：プレストレスト・プレキャストコンクリート造、
一部鉄筋コンクリート造
地下２階、地上３階
工期：1967（昭和 42）年３月 31 日着工
1968（昭和 43）年６月 30 日完成
設計:大高建築設計事務所
監理:千葉県土木部建築課
大高建築設計事務所
施工:戸田建設

昭和 | 平成 | 令和

1970 — 1980 — 1990 — 2000 — 2010 — 2020

1977(昭和 52)年
・「図書館協力車」巡回開始

1978(昭和 53)年
・書庫増築（第一次）
（中央図書館）

1979(昭和 54)年
・「仮称千葉県立北部図書館
建設計画」策定

1982(昭和 57)年
・対面朗読室　設置
（中央図書館）

1984(昭和 59)年
・書庫増築（第二次）
（中央図書館）

1987(昭和 62)年
・８分館　廃止
・「西部図書館」オープン

1992(平成４)年
・書庫棟増築（西部図書館）

1994(平成６)年
・「千葉県立東部地域図書館
（仮称）基本計画」策定

1997(平成９)年
・移動図書館
「訪問図書館ひかり号」巡回廃止

1998(平成 10)年
・「東部図書館」オープン

2001(平成 13)年
・「千葉県立図書館
ホームページ」公開

2011(平成 23)年
・「シニア支援コーナー」新設
（東部図書館）

2012(平成 24)年
・「くらしに役立つ法律・判例情報コーナー」新設
（中央図書館）

2014(平成 26)年
・「医療・健康情報コーナー」新設
（西部図書館）

2015(平成 27)年
・「子どもの読書活動推進センター」設置

2024(令和６)年
・県立図書館 100 周年

増築した書庫（中央図書館）

「対面朗読室」とは、視覚に障害のある方に、希望の資料を朗読者が音訳するサービスを行う部屋です。

対面朗読サービスの様子

西部図書館

東部図書館

【はつらつライフなび（旧シニア支援コーナー）】
（東部図書館）
人生後半からの様々な課題について、役立つ情報や調べ方を案内する「シニア支援サービス」を行っています。

【くらしに役立つ法律・判例情報コーナー】
（中央図書館）
日常の困りごとやトラブル解決を支援するため法律・判例に関する図書や雑誌の提供や、情報の探し方を案内しています。

【医療・健康情報コーナー】（西部図書館）
ご自身の健康や病気について考えるとき等に役立つ図書や雑誌等を提供する「医療・健康情報サービス」を行っています。

【子どもの読書活動推進センター】
子どもの読書活動の推進に関し、教育委員会、図書館、関係機関・団体、関係者等の連携の拠点（センター）となる組織で、県立図書館内のプロジェクトチームとして活動しています。高等学校・特別支援学校への学校用セットの貸出や、特別支援学校を訪問し、おはなし会等の読書支援を実施しています。

○新たな知の拠点を目指して

2011(平成 23)年、市町村立図書館の整備の進展や図書館ネットワークの充実など、県立図書館を取り巻く環境の変化を受け、現在の「中央図書館を中心とした３館体制で機能強化」の方針が示された「千葉県立図書館の今後の在り方」が策定されました。

2018(平成 30)年に策定された「千葉県立図書館基本構想」では、県立図書館の施設整備の方向性として、2016(平成28)年の「公の施設の見直し方針」で指摘された３館体制の機能集約化等が示されました。

この基本構想に基づき、2019(令和元)年には、県立図書館３館の集約や図書館と文書館との複合化を含めた千葉県の新たな知の拠点づくりの考え方が整理された「新千葉県立図書館等複合施設基本計画」が策定されました。

千葉県立図書館は、新たな知の拠点を目指して、これからもあゆみを進めてまいります。

○100 周年記念事業

この 100 年を振り返り、また新たな 100 年へとつなげる一歩として「100 周年記念事業」を実施しました！

詳しくはホームページ「千葉県立図書館 100 周年記念ページ」をご覧ください。

館内展示「図書館の思い出・100 年のあゆみ」

写真で見る「県立図書館の昔と今」

今から 100 年前の 1924(大正 13)年３月、昭和天皇の御成婚記念事業の一つとして、「御成婚記念千葉県図書館」が開館しました。関東大震災の翌年ということもあり、新館舎の建築は県財政の面で実現することが難しく、県物産陳列館の一部を仮館舎として発足しました。その後、「県立図書館経営方針」により、郷土資料の収集・保存や、県内の図書館の中枢としての役割など、今日に至る県立図書館の姿が定められました。

1949(昭和 24)年９月 14 日、「訪問図書館ひかり号」が県内の巡回を開始しました。戦後間もない時代に、米軍用自動車ダッチ・ウェポンキャリアを払い下げてもらい、移動図書館用に改装しました。淡いうぐいす色と小豆色のツートンカラーに染められた「ひかり号」は、たくさんの本や雑誌などの貸出資料を乗せて県内各所を巡回しました。時代とともに、活動形態は変遷し、1997(平成９)年、「訪問図書館ひかり号」による巡回は 48 年の幕を閉じました。

壁際にある引き出しは、蔵書の目録カードケースです。図書を探すために欠かせない「カード目録」が入っていました。書名順、著者名順、分類順に並べられたカードを、利用者もそして職員も利用して、図書館に所蔵する図書等の書誌情報や所在情報を調べました。カード目録は、古いものは手書きで、その後タイプ打ちになりましたが、新しい情報の追加・修正等の維持管理には労力を要しました。

○大切な本を未来に残します！！

蔵書はすべて永年保存することを目指し、大切に保管しています。そのため、書庫では温度や湿度、直射日光等に気を付け、カビ被害や紫外線による日焼け、虫損被害等が起こらないよう気をつけて管理しています。それでも経年劣化により資料が傷んできた場合には、製本し直したり、中性紙製の封筒や箱等に入れたりして長く保管できるようにしています。

ひかり号の巡回は、1949（昭和24）年に開始され、1952（昭和 27）年には、全県 24コース、305 ステーションを巡回していました。県内各所のステーションに、このような手作りの目印が置かれていました。

「千葉県図書館貸出文庫」と書かれた木の箱は、昭和初期に県内を巡回する際に、本を入れて運ぶときに使ったものです。

1968

1987

1998

中央図書館は、1968(昭和 43）年、大高正人氏による設計で現在の建物が完成しました。その後、1987(昭和 62)年に西部図書館、1998(平成 10)年に東部図書館がオープンしました。

現在県立図書館３館では、主に収集する資料を分担しています。

中央図書館…総記・社会科学等
西部図書館…自然科学・医学・工学等
東部図書館…歴史・文学

1977（昭和 52）年に図書館協力車による巡回を開始しました。この協力車は最初８館を週１回、巡回することから始まり、図書館が県内各地にできるにつれ、コースも増えていきました。現在は、県立図書館３館（中央・西部・東部）と県内 122 ヵ所の公立図書館や高等学校、類縁機関等をいくつかのコースに分けて巡回しています。図書館協力車の巡回によってネットワークが強化され、多くの方のニーズに応えることができるようになりました。

こちらの２次元コードからホームページにアクセスできます！

1996(平成８)年までに、図書館業務の電算化を図りました。利用者用端末機（検索パソコン）が設置され、コンピュータを使った目録で最新の所蔵情報を簡単に検索することができるようになりました。現在では、図書館ホームページにアクセスすれば、どこからでも図書館の所蔵情報ほか必要な情報を調べることができます。

作業の様子

温湿度管理

修理資材

破損箇所の補修

締め機での固定

中性紙製の保管箱

県立図書館は新しく生まれ変わります！

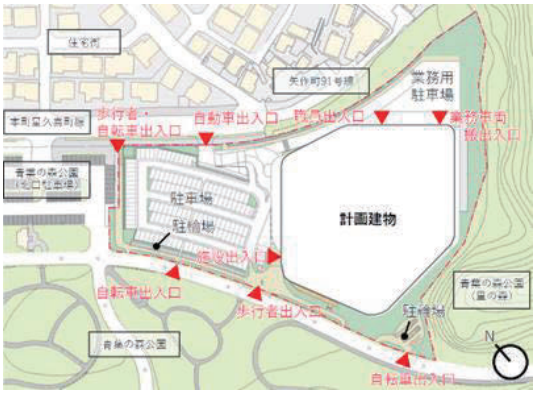
県立図書館は、現在の３館を１館に集約し、県文書館との複合施設として、県立青葉の森公園内に 2029（令和 11）年度に開館予定です。新しい県立図書館では、県文書館や同公園内にある県立中央博物館など文化情報資源を扱う機関との相互連携による機能強化と、１館集約による業務効率化を図り、サービス向上を目指します。

県立図書館は、様々な形で県民の皆様の生活に寄り添えるよう努めてきました。これからも県民の皆様に等しく良質なサービスを提供するため、進んでまいります。

詳細については、県生涯学習課ホームページをご覧ください。

https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shougaku/shisetsu/toshokan2.html

※外観イメージ．計画している内容については、今後変更になる可能性があります。



※配置イメージ（地理院タイルに測量結果等を追記）

富津市立図書館　～ルポルタージュ千葉７１～

2023（令和５）年４月１日、富津市立図書館がイオンモール富津の中に開館しました。入り口から入ってまず目に入ってくるのは、天井まで届く岬の展望台を模した「企画・展示エリア」です。東京湾に飛び出すような富津岬へと続く、富津公園の緑をイメージしたエントランスとなっていて、ショッピングに来たお客さんもついつい引き寄せられていきます。また、館内は富津市をイメージした白、青、緑を基調としていて、とても明るく感じます。

大型商業施設内に入っていることで、市民の生活圏に図書館が溶け込んでいます。本好きな方はもちろんのこと、本にあまり親しみのない方も気軽に本に接することができるよう、イオンモール富津と連携したイベントも各種開催・企画されています。

書架などの配色や高さにも配慮されており、明るくて開放感のある、居心地のよい図書館となっています。

＜利用案内＞
〒293-0012
千葉県富津市青木１-５-１
イオンモール富津３Ｆ
Tel 0439-29-7514
開館時間
10 時～20 時
休館日
毎月最終月曜日
12 月 31 日～１月２日
特別図書整理期間（年間 10 日以内）
https://lib-futtsu.jp/

千葉文化　第二五五号　令和六年三月一日発行
発行所　千葉県立中央図書館
千葉市中央区市場町十一ノ一